

北の森林 も 林 国有林



北海道森林管理局



初冬の大雪山連峰を望む（東神楽町）



国民の森林・国有林

地球を守る木 みんなの財産国有林

北海道の豊かな森林を次世代へ引き継ぐために 道民森づくりネットワークの集い2008



豊かな森林を次世代へ

十月二十五日（土）、北海道庁赤レンガ庁舎の前庭で、「道民森づくりネットワークの集い2008」を北海道、北海道森林管理局の共催で開催しました。

これは、北海道の豊かな森林を次世代に引き継ぐため、独自の活動を行っている道民や森林所有者、森林ボランティアなどが集い、森林に関する様々な情報の発信や意見交換等を行うことにより、新たな森づくりに向けて考え、行動するための道民ネットワークの強化・拡大を図ることを目的に行ったものです。

当日は、森を体験できるイベントがいろいろの「森のテント村」、森づくり活動等を行っている団体が意見を交換する「森の車座ディスカッション」などのアトラクションを行いました。

森の車座ディスカッション

「協働のカ・タ・チ」をテーマに、森を楽しむ、育み、次世代に引き継ぐために手を結んで行くことの大切さを共有し、その道筋をみんなで作くりあげていく参加型の発表&フリーディスカッションを行い、会場はみなさんの

森づくりへの熱い思いに包まれていました。

森のテント村

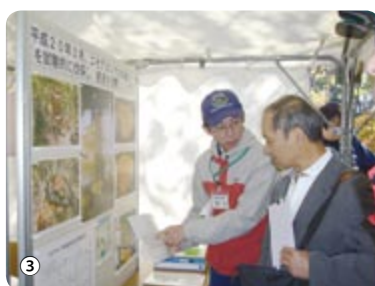
森づくりや森とのふれあい活動などの発表やアクティビティ・ワークショップを行う「森のテント村」では、市民・NPO団体、企業などの森づくり活動発表コーナーや、森の恵みで作るクラフトなどが行われました。

北海道森林管理局からは、石狩地域、常呂川、釧路湿原、駒ヶ岳・大沼の各森林環境保全ふれあいセンターと知床森林センターがポスターセッションに参加し、森林の再生や世界自然遺産知床での日頃の活動等を紹介しました。

各団体のつながり深まる

このほか、ツリーインング（木のぼり体験）や丸太切り体験、ペレットストーブの展示、スタンプラリー、きのこ汁の試食など様々な催しが用意され、暖かな日差しの中、数多くのみなさんに森林に関わる諸活動を知っていただけでなくとともに、各団体間のつながりを深めた有意義な一日となりました。

（指導普及課）



①森づくりへの熱い思いが語られた「森の車座ディスカッション」②・③北海道森林管理局のポスター展示④昨年の全国植樹祭のマスケット芽森（めもり）ちゃんも愛嬌を振りまきました

森林行政と研究機関の連携強化

技術開発試験地で意見交換

森林技術センター



①

十月十七日（金）、森林技術センター（士別市）では、森林関係の研究機関及び行政機関との連携の強化を図るために、士別市上士別の国有林において、関係者を対象とした森林施業の試験地視察と意見交換会を開催しました。



②

当日は各機関から十七名の参加があり、当センターの技術開発課題の中から「異なる

地表処理による流出土砂量試験地」と「高寒風衝地における天然補助技術開発試験地」の現地説明を実施しました。
現地では参加した北海道大学、天塩川流域森づくりの集いメンバー（下川町・上川北部森づくりセンター）及び上川北部森林管理署・空知森林管理署北空知支署による意見交換を行いました、その中では、大学で実施している雨量観察の方法や寒風害・雪腐病の対策などについての情報交換も行われました。

今回の交流から得られた情報・知見を今後の技術開発に活かしていきたいと考えています。

（藤岡 副所長）

- ① 高寒風衝地における天然更新補助技術開発の試験地
- ② 異なる地表処理方法による流出土砂量を測定する試験地

業界視点を学ぶ

木材業界人による講演を実施

北海道森林管理局 販売担当者会議



十一月十八日（火）、北海道森林管理局の「販売担当者会議」において、木材流通業を営むノース・フォレスト（有）代表取締役 齋藤忠満氏を講師にお招きし、「最近の木材製品の流通状況」と題した講演をいただきました。

これは昨今の輸入木材の動向・国産木材、とりわけ道産木材の動向の変動に鑑みて、職員の見解を広めるために開催したものです。
齋藤氏は道内の木材取引の実態を、国内外の木材業界の状況や一般経済を交えて展開し、国有林の木材販売への貴重なご意見もいただくなど、森林管理局職員にとって大変有意義な講演となりました。

（販売第一課）

「北の森21運動」は、北海道の森を「守り・つくり・活かす」を合言葉に、市民参加の森づくりの輪を広げ、また次代を担う子どもたちに森での活動呼びかける、森と人をつなぐ身近な運動です。

北の森21運動の会

2008年の活動を振りかえる



野幌森林再生 市民参加の森づくり 下刈り作業 6/14 江別市野幌国有林 (65名)

4年目となった「ローソン緑の募金による森づくり」は、有用天然稚樹を保全しつつ、下刈り作業を進めています。また、7月には今年2回目の下刈り、8月には外来樹ニセアカシアの除去を行いました。



台風18号被害復旧の 森づくり

3年がかりの植樹も昨年で終了し、今年からは下刈り作業が本格化



←子どもたちも鎌を持って一生懸命下刈り作業



→外来樹ニセアカシアはこの森の将来にふさわしくないため除去しています

→親子で一生懸命に森林づくり



←清水國明さんによる豪快なチェーンソーカービング

親子参加の森づくり 10周年記念活動

10/12 札幌市簾舞国有林 (153名)

10年目となった「すくすく緑の募金による森づくり」(ツルハ・P&G)では、風害跡地の復旧植樹を行っています。当日はゲストの清水國明さんのトークとチェーンソーカービング、子どもたちとのウッドクラフトなども楽しみました。

エネオスの森 下刈り作業 7/21 千歳市蘭越国有林 (54名)

平成17年に社員・家族ボランティアが自ら植えたトドマツ・ヤチダモなどの下刈りを行い、植えた木々の成長を楽しみながら爽やかな汗を流しました。



森づくりには
保育が
大切です!



明るくなった森に達成感!

キンピール千歳水源の森(法人の森) 枝打ち・除伐作業

7/19 千歳市鳥柵舞国有林 (176名)

キンピール100周年記念で設定した法人の森で、社員・家族ボランティアと地元の子どもたちが、S59植栽のアカエゾマツの除伐作業を行いました。



次代を担う
子どもたちを
もっと森へ



**森林総合学習
in 簾舞の森**
10/10 札幌市簾舞国有林
(77名)

札幌市立簾舞小学校5年生が開校110周年の記念植樹、除伐体験、森林観察ウォーキングなどの森林学習を実践しました。



↑森の泉に歓声



**MOTTAINAIキッズ
植林プロジェクト
簾舞の森**

8/2 札幌市簾舞国有林
(50名)

札幌市西区子ども会のみなさんが、風害跡地の復旧植樹や除伐、森林ウォーク、ポストマンズウォークなどで森の1日を楽しみました。



↑大人気ポストマンズウォーク

刈払い機研修



7/25 幕別町元忠類私有林にて



8/23 稚内市/地球温暖化防止・北のてっぺん緑化プロジェクト実行委員会のみなさん

チェーンソー研修



9/9 恵庭市恵庭国有林/コープさっぽろ・みどり植樹グループのみなさん



10/17 函館市尾札部私有林/21世紀道南の森づくり実行委員会ほか3団体のみなさん

**森林保育
ボランティア
研修会**



今年の森づくり活動は、昨年の全国植樹祭に続き、北海道洞爺湖サミットの開催があり、追い風を意識してのスタートとなりました。

昨年までの三カ年で復旧植樹を終えた野幌国有林(台風被災地)の下草刈りは、植樹木はもちろん、天然更新稚樹の成長も楽しみに二回目刈りまで実施。

平成十一年に始まった親子参加の植樹は、今年で十周年を迎え、支援者の(株)ツルハの店頭公募による多数の参加者のみなさんと一緒に植樹と特別ゲスト清水國明さんのイベントを楽しみました。

このほか、企業ボランティアの参加による下刈・除伐などの保育作業、札幌市西区子ども会によるキッズ植林や、簾舞小学校の総合学習による森の活動、機械を使った保育作業を安全に行うための刈払機・チェーンソー研修も行うことができました。

今年一年の本会の活動に、ご支援ご協力をいただいたみなさまに心から感謝を申し上げます。

北の森21運動の会
会長 角館 盛雄

北の森21運動の会事務局

〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目
北海道林業会館内 電話&FAX011-242-8321

構成団体：北海道、北海道森林管理局、北海道林業協会、北海道木材産業協同組合連合会、北海道森林組合連合会、北海道森と緑の会、北海道森林整備公社、北海道林業土木連合協議会、日本森林技術協会、日本森林林業振興会など関係67団体機関

みんなで 枝打ち えりもの森は超～元気！



えりもの森をもっと元気に

十一月六日（木）、えりも町のえりも岬国有林において、えりも岬の緑を守る会主催による育樹祭が行われました。

当初は十月二十四日に予定されていたが、黄金道路（国道）が通行止めになる程の荒天のため延期となりました。

当日は、クロマツ人工林の枝打ち作業を、緑を守る会、えりも町役場、同町議会、えりも漁協、ひだか南森林組合、日高支庁、日高森づくりセンターなど関係団体からの参加者七十名で行いました。

精進の良さで雨が上がる

この日のえりもは、朝から強い雨が降っており、道路に水溜まりができるほどでしたが、作業を始める頃には雨も上がり、この季節では珍しい程の良い天気に恵まれました。

繁茂する枝との格闘

今回の実施箇所は、今まで一度も枝打ちなどの作業の手が入っていないことから、枝葉が繁茂し、どこから手を付けて良いかわからない程の状況でした。

しかし、この日参加した海の男をはじめとするみなさんの行動力はすさまじく、のこぎりを手に黙々とクロマツの枝と格闘を続け、あつと言う間に林内がスッキリしました。

森の未来に思い馳せ

一時間程の作業で心地よい汗をかいたみなさんは、来年度にえりも町で予定されている北海道植樹祭に向けた協力を誓い合うとともに、大きく育ちいくえりもの森の未来に思いを馳せていました。

これからも、みなさんとともに、えりもの森を大きく育てていきたいと考えています。
(中家 流域管理調整官)



署長 雑感

地域の方々に認められるために

レクリエーションの森から国有林を知ってもらおう



網走中部森林管理署
署長 **洞下 健一**

を除去しました。

このほか、さまざまな行事に少しずつですがかかわっています。

みな少人数の活動ですが、国有林という存在、その魅力や働きなどを地域の方に知っていただく機会として重要だと思っており、さらに、これから何ができるのかと、日々考えているところです。

くすことではないかと思っ
ています。
そういうことを考えた

鈴の国有林野を管理して
います。地域の総面積に占め
る国有林の割合は五割弱。
しかし、その存在感はと言
うと、どうも…というのが
正直な感想です。

前任地でもそうでした
が、森林管理署での私の一
番の役割は、まず第一に、
地元には国有林という森が
あって、その森は森林管理
署というところを守り育て
ているということ、でき
るだけ多くの方に知って
いただくこと。次に、国有林
にはさまざまな魅力や働き
があって、地域にとっ
てよいもの、ひいては、
なくてはならないものとい
うことを、一人でも二人で
も多くの方にご理解いた
だくこと、このために力を尽



幌岩山からサロマ湖方面の展望（佐呂間町）

網走中部森林管理署は北
見市、置戸町、佐呂間町の
一市二町に広がる約十一万



ワッカ原生花園と造成した防風林（北見市）

きに、やはり一番分
かりやすい材料は、レクリエー
ションの森、保護林、緑の回
廊といったものではないか
と思います。

当署の管内には、置戸町
に鹿の子沢風景林、佐呂間
町・北見市にサロマ湖畔自
然休養林などがあります。
これらの森は、新緑、紅葉、
巨樹、お花畑、滝、眺望と
いった魅力を備えており、
また、森の働きの
最たるものである
水を育む働きを実
感できます。

こうした森を舞
台にした活動の一
例として、サロマ
湖畔では、今年、
地域の方々ととも
にハマナスの枯枝



鹿の子沢 虹の滝（置戸町）

みんなで森林を大切に 育てていこう!



高校生と植樹・育樹活動

いきいき流域プロジェクト

十勝西部森林管理署東大雪支署

十月十六日(木)、北海道帯広農業高等学校の森林科学科一年生のみなさんと植樹・育樹体験活動を行いました。

これは当支署の「流域管

理推進アクションプログラム」として、

十勝流域森林・林業活性化協議会との共催で行ったものです。

当日は、午前中に農業生産法人が運営



(西山 技術専門官)

し、「混播法」という色々な樹種を一つのサークルに植え、自然淘汰によって自然林を育て上げる方法をとっている清水町の「十勝千年の森」で植樹体験を行い、ハルニレの苗木と林内で拾ったクルミをていねいに植えました。

午後からは、当支署管内の国有林へ移動し三十二年生のトドマツ人工林で保育間伐作業を体験しました。職員から作業の説明を受け、チェーンソーによる伐倒作業の実演を見学した後、早速、手鋸による伐倒作業に入りました。

ヘルメットと保護メガネを着用した生徒たちは、「伐倒方向良し!」、「受口良し!」と大きな声で合図し伐倒作業を行っていました。



び「北の大地の森林循環プロジェクト」と連携し行ったものです。

当日は、森林ボランティア団体や民有林関係機関から七十名が参加し、新信砂川上流部の国有林と下流部の河畔林にミズナラなど五百本余りを植樹したほか、中流部の道有林で、トドマツ人工林の枝打ちも行いました。

また、ネイチャーゲームや指導林家の木谷辰雄氏による講話も行われ、民・国連携を続けていく上で成果の多い一日となりました。(高橋 流域管理調整官)

増毛町で「協働の森」の「にしんの森再生プロジェクト」

留萌南部森林管理署

十一月一日(土)、増毛町新信砂地区において地域のみなさんの協力を得た「協働の森づくり2008」を留萌支庁との共催で行いました。

これは当署の「にしんの森再生プロジェクト」の一環として、北海道が進める「北の魚つきの森事業」及

社員と家族が野幌の森整備活動

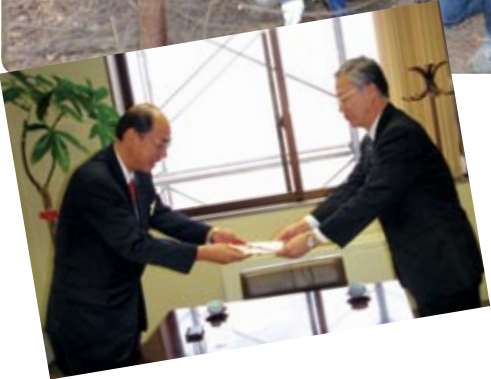
アサヒビルとレクサス支援協定

石狩森林管理署

十月三十日（木）、アサヒビル（株）と石狩森林管理署は、レクリエーションの森をフィールドとした企業の社会貢献活動を目的とし、昭和の森野幌自然休養林を対象とする支援活動協定を締結しました。

締結式は、同社北海道統括本部（札幌市）で行われ、谷田部統括本部長と瀬戸口石狩森林管理署長が協定書を交わしました。また、今年度計画しているパンフレット作成の目録の授与も併せて行われました。

同社は、レクリエーションの森のオフィシャルサポーターとして屋久島自然休養林、秋田市



仁別自然休養林で既に協定締結しており、野幌は三個所目となります。

調印後、谷田部本部長は「当社では企業の社会的責任として、森林保全活動に取り組んでいます。野幌自然休養林での様々な活動を支援し、地域に貢献していきたい」と話し、また、瀬戸口署長も「行政だけでは対応できないことも、企業の参画により可能になることもあり、大いに期待しています」と話していました。

十一月十五日（土）には、社員と家族二十三名による森林整備ボランティア活動として、アカエゾマツ人工林での枝打ち作業が行われました。

晩秋の肌寒い中での作業でしたが、参加者のみなさんは枝と格闘し心地よい汗をかき、作業後の林内を振り返り「すっきりした」と笑顔を見せていました。

（藤本 業務第一課長）



当署では裸地化した海浜で植生と森林を再生し、その景観との調和を図る森林生態系保全対策事業に取り組んでいます。

十一月十二日（水）、利尻礼文サロベツ国立公園の最南端、幌延町浜里の国有林において、NPO法人「天塩川を清流にする会」と森林ボランティア団体「てし

お森遊会」の協力でカミネツコンを使った植樹活動を行いました。

現地は、厳しい気象条件を緩和するため防風柵を設置しており、植栽木は途中で守られながら生長していきます。また、柵のまわりには周辺で採取したハマナスの種子の播種も行いました。

参加したみなさんからは「来年もぜひ参加したい」との声も聞かれ、今後これらの団体と連携した取り組みを引き続き進めていきたいと考えています。

（大倉 流域管理調整官）

NPO・森林ボランティアと連携 海浜景観の再生に取り組み

留萌北部森林管理署



森林官 リレー

日々の仕事に責任とやりがい
上磯国有林をしっかりと守り育てるために努力



檜山森林管理署
上磯森林事務所
森林官
中嶋 博英

上 磯森林事務所は北海道南部、平成十八年に函館湾に面する上磯町と北海道の水田発祥の地である大野町との合併で誕生した北斗市にあり、旧上磯町と函館市に所在する国有林のうち約五三〇〇畝を管理しています。

管 内の森林は、ブナなどの天然林とトドマツを主体とする人工林が占めています。

地形は全体的に急峻で、また川や沢も多いことから木材の生産が困難な個所が多い流域のため、国土の保全や水源のかん

養などの公益的機能の役割を大切にした森林施業を行っています。

基 幹産業は農業・漁業、そして

国内有数の石灰産地でその大部分が国有林である我朗鉱山から採掘される石灰石を原料とするセメント工業です。



セメント工業を支える石灰石の宝庫「我朗鉱山」



館 市内には五稜郭公園の南東に五稜郭保安林

(一・八畝)があり、風致・保健保安林に指定されています。

この保安林は安政年間(一八六二年頃)植栽のアカマツや昭和四十一年に補植したオウシユウアカマツ、昭和八年に植栽したヤチダモ等で構成されています。



長い歴史をもつ五稜郭保安林

林内には歩道などはありませんが、天気の良い日には犬をつれて散歩をしている方などが見受けられます。例年、町内会等の地域のみなさんとのゴミ拾いや、草刈り作業などを行っており、過去には子供会による植樹も行われています。

今後もより一層多くの市民に親しまれる場となるよう地域と共に取り組んでいきたいと考えています。

森 林にはこれまでからますます多くの期待や役割を求められてくると思

いますが、その中で山を見て歩き、その山の将来を考えた施業を判断する森林官の仕事に、責任とやりがいを感じています。

今後もしっかりとした森林づくりを行えるよう私自身さらに努力していきたいと思



中嶋 森林官

上磯森林事務所

- 北斗市常磐2丁目7-7
- 電話0138-73-0907

治山最前線 羊蹄山の民有林直轄治山事業

災害への耐性の高い安全な流域づくり

山地の保全・災害復旧などの治山事業を現地で担う各地の治山事業所からのレポートを紹介します

後志森林管理署
尻別川治山事業所

①

①土石流被害から農耕地を守る滝の沢低ダム群

②昭和56年の土石流災害

③雪を冠した初冬の羊蹄山



尻別川治山事業所は民有林直轄治山事業の実施を目的に設置された事業所です。

「民有林直轄治山事業」とは、①事業費の総額がおおむね五十億円以上②高度の技術が必要とする③一つの都道府県を超える、これらのいずれかに該当し、かつ国土の保全上重要なものであるときに国が民有林において行う治山事業のことです。

尻別川地区民有林直轄治山事業は、蝦夷富士とも呼ばれる後志支庁管内の羊蹄山（一、八九八㍎）とその山麓のうち、倶知安町・京極町・喜茂別町にまたがる約九千㍎の道有林と民有地を事業実行エリアとしています。

この羊蹄山の山麓は大正時代から昭和初期にかけて開拓が進み、最盛期には標高五〇〇㍎付近にまで入り込んでいましたが、度重なる土石流災害などにより被害を受け、農家の離散など

が相次ぎました。

そこで北海道では昭和三十二年より復旧工事に着手し事業を進めてきましたが、その後も災害が相次ぎ、地域住民より大規模な復旧治山工事への要請が高まりました。

これを受け、昭和四十七年、当時の倶知安営林署（現後志森林管理署）に尻別川治山事業所が開設され、事業がスタートしました。

この間、工事施工中に土石流により重機・資材類はもとより、その作業員までも巻き込む災害が発生するなど、幾多の困難を乗り越え、今年度までの三十七年間で総事業費は約九十億円、治山ダムなどの溪間工六二三基、山腹工約四九㍎等を施工し、近年は被害を与える土石流は発生しておらず、災害への耐性の高い安全な流域づくりを表現することができました。

尻別川地区の民有林直轄治山事業は、今年度をもって全体計画を終え、北海道

へ移管されることになっていきます。

一つの危険地区が減り、地域の方々へ安全・安心をもたらした本事業に携わられたことに感謝し、またこれまで関わった多くの先人たちへ感謝し、締めくくりにしたいと思います。

後志森林管理署 尻別川治山事業所

- 虻田郡倶知安町 南4条東4丁目
- 電話 / 0136-22-2575

主任 嶋貫 新二



羊蹄山麓にある尻別川治山事業所（右）

森林環境保全 ふれあい センター

通 信



森林環境保全ふれあいセンターは、国有林をフィールドとした自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育などの活動を支援しています。



野幌森林再生プロジェクト フォローアップ委員会が現地視察

野幌森林公園（江別市ほか）では、当ふれあいセンターが中心となり、平成16年9月の台風による風倒被害跡地を市民との協働により自然林に再生させる「野幌森林再生プロジェクト」を実施しています。

10月30日（木）、このプロジェクトの評価を行うフォローアップ委員会の現地視察を実施し、3月に森林再生活動地に悪影響を与えているニセアカシアの母樹21本の伐採個所や90年前に植栽した広葉樹人工林などを視察しました。

委員の方からは、天然更新木などにつけているピンクテープの意味を知らせる必要性や、生物多様性の維持と一層の外來種対策、全般的に野幌では間伐が遅れていること、さらには、間伐前に希少種などの調査を行うべきであるなどの意見が出されました。

また、風倒被害をそのまま保存している個所では、各種モニタリングが実施されており、「放置個所」というネーミングは変更すべきとの指摘もありました。

これらを受けた同委員会による本格的な議論とプロジェクト評価は来年3月頃に行う予定です。

（豊田 自然再生指導官）

石狩地域森林環境保全
ふれあいセンター



紅葉のオホーツクの森 みんなで森の観察と水質調査

北見市立上常呂小5・6年生



10月16日（木）、北見市立上常呂小学校の5年生・6年生28名が校外学習として今年もオホーツクの森へ元気よく！やってきました！



これは夏と秋、2つの季節の森の様子などを学べるように時期を変えて実施しているもので、今回は紅葉に彩られた秋のオホーツクの森「古の森」で森林観察と湧水の水質検査を行いました。

森林観察は3班に分かれ、当ふれあいセンター職員が、森での危険な動植物、鳥の巣の話、水の大切さ、紅葉のしくみ、森林の大切さなどを説明しながら案内し、子どもたちは熱心にメモを取っていました。



途中、松ヤニをつまようじに付けて水に浮かべて走らせる実験をし、うまく走り出すと「走った!!」、「なんで～??」と歓声が上がったり、いろいろな木々の落ち葉を拾って楽しみました。

また、5年生は「古の森」の湧水の水質調査も行いました。

試験紙を使った調査では、この水はきれいな水のように、ペーパーの測定では弱アルカリ性であることが分かりました。

子どもたちは、森の中を歩きながら色々な発見と疑問があったようで、沢山の質問が飛び出し、賑やかな声が森の中に木霊する、楽しい1日となりました。

(浅田 自然再生指導官)



常呂川森林環境保全
ふれあいセンター

みんなで楽しい森林教室



森林博士になろう！

自然の恵みを材料に楽しい工作

網走西部森林管理署

十月三十日（木）、遠軽町安国の国有林において、同町立遠軽東小学校五年生の総合学習「森林博士になろう」（秋期編）を行い、

当署の職員と「まちの森林博士」が先生役を務めました。

これは、子どもたちに、自然と人間の共生の仕方や地球環境に対する興味・関心を持つても

らうことなどを目的に四季を通じて行っているもので、これまでに森林の観察会を行い、また一月にも冬期編を予定しています。

今回の秋期編では、ソルや葉や木といった「自然の宝物」を材料にした工作体験として、葛のツルを使ったりリス、ヤナギとヨモギを使った弓矢、イタドリの本と笹の葉で笛作りを行いました。

子どもたちは、目をキラキラと輝かせながら作品を作り、でき上がった弓を射



ったり、笛を鳴らして歓声を上げたり、落ち葉が積もった溝では「落ち葉のお風呂？」を楽しんでいました。
（辻 森林ふれあい係長）

十一月十三日（木）、芽室町立上美生^{かみひせい}中学校の生徒九名が、総合的な学習の時間に調査した「環境問題」について、さらに理解を深めるために十勝西部森林管理署へ取材に訪れました。



このカリキュラムは同校が「生徒自らが関心のある問題について調べ、一般社会の人たちとコミュニケーションを図り、社会との協調性を高める」ことを目的に実施しているものです。

当日は生徒たちが用意してきた質問に一つずつ答え、補足説明などを行ったあと、森林のもつ公益的機能や、間伐作業などの必要性についてプロジェクトを活用して説明しました。生徒たちは、国有林で実

施している森林施業や間伐の重要性などに理解を深めた様子でした。

これをきっかけに、森林に関する正しい知識を身につけ、環境問題にも積極的に取り組んでもらえればと思っています。

（小野 森林ふれあい係長）

総合学習での疑問をしっかりと解決 中学生が森林づくりを取材

十勝西部森林管理署

もっと！もっと！森のこと知りたい！ リスも出てきた森林教室

上川北部森林管理署

十月二十三日（木）、名寄市立名寄南小学校の遊々の森「南小の森」で三年生四十八人と秋晴れの下、楽しく森のことを勉強しました。

後藤署長から「森の中へ入って体験することが大切、今日は自然と思いつきり触れ合ってください！」とあいさつの後、まずは子どもたちからの質問コーナーに入りました。

みなさん好奇心いっぱい「木は何年くらい生きるの？」「木はどんな場所を好むの？」「苗木は何年生くらいで植付けするの？」



など沢山の質問があり、一つずついいねいに説明しました。

その後、木々の説明をしながら林内を歩きましたが、更なる質問が飛びだし、説明はすっかりメモしていました。

最後に「カミネットコン」を使ったアカエゾマツの植樹も行い、目印の木杭に自分の名前や「早く大きくなあれ！」などの思いを記していました。

子どもたちは「今日はどうしても楽しく勉強できました！」「もっと、森のことを知りたい！」と秋の一日を振り返っていました。

帰りには、思わずエゾリスがヒョッコリ顔を出し、「リスだー」、「森の中にクルミがなかったのは）きつと、このリスが持って行ったんだー」、最後の最後にも楽しいエピソードができました。

（塚田 流域管理調整官）

番外編 森林官も専門分野を勉強 OJT山地災害調査研修

根釧西部森林管理署

10月28日（火）、根釧西部森林管理署では、斜面防災技術を専門とする国土防災技術北海道(株)技術部の小沼 忠久氏を講師に招き、山地災害調査業務について、森林官ら関係職員を対象とした研修を行いました。

これは、予防治山における山地の見方等の知識を習得することを目的に実施したもので、当日は25名の職員が参加しました。

今回の研修では、山地が発信する「8つの危険信号」（わき水が止まる、川が濁る、亀裂が走る、落石など）に注目すること、その信号が何を意味するのかなどについて学んだほか、当署管内で発生した大規模な地すべり災害などの具体例や発生時の報告のポイントなどについても学びました。

今回の研修の成果を、実際の現場での仕事に活かしていきたいと思います。

（村部 治山課長）



